

福 井 県

「福井県スポーツ推進計画（案）」に関する 県民パブリックコメント意見募集の結果

令和7年3月25日
福井県交流文化部文化・スポーツ局
スポーツ課

「福井県スポーツ推進計画（案）」について、県民の皆様から貴重な御意見をいただき、厚くお礼申し上げます。提出されました御意見の概要等を、以下のとおり公表します。

- 1 募集期間
令和7年2月17日（月）～3月3日（月）
- 2 意見件数（意見提出者数）
34件（16名）
- 3 提出された御意見の概要および県の考え方
別紙資料のとおり
- 4 問い合わせ先
福井県交流文化部文化・スポーツ局スポーツ課
TEL：0776-20-0746
FAX：0776-20-0664
メール：sports@pref.fukui.lg.jp

**「福井県スポーツ推進計画（案）」に関する
県民パブリックコメント意見募集の結果と県の考え方**

全般

No	意見	意見に対する考え方
1	県民の運動・スポーツ実施率を向上させるためには、市や町とさらに協力することが大切だと感じます。市町行政、スポーツ推進委員、スポーツ協会など多くの団体を巻き込み、県が旗を振りながら、皆を引っ張っていくことを期待します。	次期計画の策定を進めるにあたり、各市町行政やスポーツ関係団体、県民を対象に幅広く意見交換を実施し、本県の現状と課題を把握してきました。引き続き、市町行政とは次期計画について連携・協働しながらスポーツ振興を推進するとともに、各市町のスポーツ推進委員やスポーツ協会など多くの個人・団体に協力をいただきながら施策を進めてまいります。
2	福井県スポーツ推進計画は、様々なことが網羅されていて素晴らしいものだと感じました。一つ一つを実施していくことや、実際の例をもっとわかりやすく提示できると県民の意識も高まっていくかと思えます。	県では、市町や関係機関、スポーツ関係団体などとの連携を強化しながら、次期計画が掲げる基本理念や目指す姿の実現に向けて、具体的施策を一つ一つ着実に進めてまいります。

基本方針1 全世代の日常にスポーツを

No	意見	意見に対する考え方
3	子育てが終わったミドル世代は、運動と、ランチやフラワーアレンジメントなどの組合せイベント（1日）があると、ワクワクし友達と一緒に参加する機会も増えると思います。私は運動が好きなので、家事、子育て、介護、仕事をしながら、楽しく運動に親しんでいきたいと思っています。	県では、県民のスポーツ・文化活動の活性化や、県民相互の交流を促進するため、スポーツ・文化の体験交流イベント「スポカル FUKUI」を開催しています。引き続き、県民それぞれのライフスタイルや興味・関心に応じたワクワクするようなイベントにより、運動に親しむ機会づくりを図ってまいります。
4	スポーツ未実施者の参加促進など、スポーツをあまりしない世代に向けた施策があり、良いと思いました。	スポーツ未実施者の参加促進を重要な施策の一つとして位置づけております。働き盛り子育て世代・女性を対象としたスポーツイベントや職場でのエクササイズ、ストレッチ、ヨガ等の軽運動を普及するなど、普段スポーツをあまりしない世代がスポーツに親しみ、健康で充実した生活を送ることができるよう努めてまいります。
5	気軽にスポーツと触れ合える機会を作ることでスポーツの楽しさを知ることができるのではないかと考えます。	スポーツ・文化体験交流イベント、親子で参加できるスポーツイベントの開催など、県民が気軽にスポーツと触れ合い、その楽しさを実感できる環境を整備してまいります。
6	子育て世代として、子供と一緒にスポーツできる環境が増えることを望んでいます。親子参加型で普段体験できないようなスポーツ体験会を多く開催してほしいです。	県では、働き盛りや子育て世代の女性のスポーツ参加を強く進めていきたいと考えています。親子で参加できるスポーツイベントや体験会等スポーツができる機会の創出を図ってまいります。

7	<p>地域スポーツクラブなどと連携した中学校部活動地域移行について、地域に希望するスポーツが無い地域もあります。全ての種目を網羅することは難しいかと思いますが、子供が希望するスポーツクラブがない地域に対し、県として支援をお願いしたいと思えます。</p>	<p>中学校の部活動地域移行に関しては、生徒が希望する活動や地域のスポーツクラブの状況などの実態をよく知る市町が主体となって、現在地域移行を進めているところで、県では、国の実証事業の活用に加え、「クラブ運営に必要となる経費（運営団体事務局人件費、スポーツ活動用品購入、指導者謝金）への支援」などの補助制度や中学生を受け入れ可能な地域クラブの情報を市町に提供するなど、子どもたちの多様な活躍の場が広がり、スポーツ活動の充実が図られるよう、今後も中学校の部活動地域移行について、市町を支援してまいります。</p>
8	<p>この計画は女性がスポーツをする上で、女性であることに起因する困難に寄り添っていません。20～30代女性の週1回以上運動・スポーツ実施率を上げるには、男性が家事や育児を担うこと、男性の家庭進出も同時に進めないと達成できません。また、子どもと一緒にできるスポーツイベントの開催も必要です。</p>	<p>女性であることに起因する課題への解決に向けては、県として関係部局との連携を深めながら包括的な取組みの中で進めてまいります。その上で、本計画では、「スポーツによる健康づくりの推進」や「働き盛り子育て世代・女性のスポーツ機会の創出」に力を入れて取り組むことを掲げています。忙しい日常生活の中でも、子育て中のママやパパが子どもと一緒に参加できるスポーツイベントなどを開催することにより、働き盛り子育て世代・女性の健康づくりや運動習慣づくりをサポートしてまいります。</p>
9	<p>教員の職場環境が改善され、女性の子育てや介護がしやすくなっています。また男性や家族の協力も得やすくなっているので女性一人が抱え込むことも少なくなっていると感じます。次のステップとして、女性が自分の時間を持てるようにすることが重要です。特に運動はリフレッシュ効果や健康増進効果があるため、親子で参加できるイベントや運動習慣化サポート事業が役立ち、日々の生活に好循環が生まれると考えます。</p>	
10	<p>子育て世代が気軽に参加できる半日コースのイベントなど、運動に親しむきっかけづくりや、外に出る機会づくりとなるイベント開催への支援を計画していただけるとありがたいです。</p>	
11	<p>日常の移動も運動と捉える観点から、企業とのタイアップなども拡大すると良いのではないかと感じています。車社会の福井では運動時間が少ない現状を考えると、徒歩や自転車通勤への通勤手当の拡大やふくいはぴコイン付与など、企業を後押しする施策があっても良いのではないのでしょうか。（スポーツエールカンパニー制度の拡充）</p>	<p>ふくい女性活躍推進企業へのスポーツ活動支援、スポーツエールカンパニー認定制度の活用促進、ふくい健康づくり実践事業所の認定など、様々な観点から企業と連携を深め、県民の運動機会の確保や、徒歩・自転車通勤の推奨など、スポーツ実施や習慣化に向けた気運醸成を図ってまいります。</p>

12	<p>子供・家族向けだけでなく、大人向けの体験会や研修会を定期的を開催し、福利厚生の一環として参加できる形があると、ウェルビーイング向上の観点からも良いと考えます。</p>	<p>1日の大半を過ごす職場において、スポーツに親しむきっかけづくりを進めるほか、自宅の隙間時間で簡単にできる軽運動の体験会などを開催することにより、健康づくりや運動習慣づくり、ウェルビーイング向上につながるよう進めてまいります。</p>
13	<p>年齢が上がるにつれて、運動をする機会が減ってきていることを実感しています。ライフステージに応じたスポーツイベント開催や参加支援、予防のための体操などがあれば、参加してみたいと思います。</p>	<p>幼児から高齢者まで、全てのライフステージにおいて、県民それぞれの体力やライフスタイル、興味や関心に応じたスポーツへの取り組みを進めてまいります。 基本施策6「シニア世代のスポーツ活動の充実」では、健康福祉部と連携し、介護予防の取り組みに合わせた健康づくりや、eスポーツを活用した交流機会の創出などフレイル予防につなげてまいります。</p>
14	<p>福井しあわせパラ☆スポーツデーについて、参加者の年齢層が高く、未成年の障がい児者の参加が少ないため、特別支援学校や特別支援学級の児童生徒が参加しやすい事業形態や、周知時期の検討を希望します。「障がいのある子どもたちがスポーツに出会うきっかけ」となる魅力的な事業になることを期待しています。</p>	<p>特別支援学校や小中学校の児童・生徒がより多く参加できるよう、特別支援学校等と調整しながら周知の時期を検討します。 今後、特別支援学校等の児童・生徒向けパラスポーツ合同競技体験会の実施を予定しており、「スポーツと出会うきっかけとなる」ワクワクするイベントになるよう努めてまいります。</p>
15	<p>パラスポーツ出前授業について、各学校への訪問は年に1回の制限があるほか、多くの学校を巡回することはマンパワーの関係で難しいと考えられます。今後、「学校教育の中で」パラスポーツをさらに普及させていくために、どのようなビジョンをお持ちでしょうか。</p>	<p>出前講座は、主に小中学校の児童・生徒に対し、パラスポーツを通じて障がいに対する理解を深めていただくことを目的としており、1校でも多くの学校に伺えるよう年1回までとしています。伺った学校では、児童・生徒だけでなく先生方の理解も深まりますので、出前講座をきっかけに、学校内でさらにパラスポーツの取り組みを進めていきたいと考えています。出前講座の講師は、パラスポーツのトップアスリートや競技団体の方をお願いしていますが、パラリンピックに出場した選手など新たな講師を派遣できるよう努めてまいります。</p>
16	<p>パラスポーツ指導員の確保・スキルアップについて、福井県障害者スポーツ指導者協議会としあわせ福井スポーツ協会との連携強化が必要です。例えば、初級講習会、スキルアップ研修などを共同で企画運営することや、双方のパイプ役になる人材の設置、定期的な意見交換などができると良いです。</p>	<p>しあわせ福井スポーツ協会（以下、協会）と福井県障がい者スポーツ指導者協議会（以下、協議会）は、連携しながら、初級パラスポーツ指導員養成講習会や各種イベントでの指導員派遣などの事業を進めています。 令和6年度から協会に配置したパラスポーツアドバイザーは、協議会の役員でもあり、協会と協議会のパイプ役としての役割も期待されています。また、令和7年度には、新たに、指導員対象のスキルアップ研修会の開催を検討しており、協会と協議会の連携をより深めながら進めてまいります。</p>

17	<p>障害者スポーツ競技人口の増加に向けて、以下の事業展開を期待します。</p> <p>I 障害者限定での無作為抽出でのスポーツ状況実態調査</p> <p>II 医療、介護保険との連携</p> <p>※医師、リハ職、SW、ケアマネに対して障害者スポーツの情報提供を実施。患者、利用者をスポーツ場面へつなげる。相談窓口も必要。</p> <p>III 特支校を卒業後にスポーツが継続できるようなサポート</p> <p>IV 「特別支援学級」の児童のスポーツ現況調査</p> <p>V パラスポーツの大きな大会誘致。車いすバスケット、車いすマラソン、ボッチャなど</p> <p>※大きな大会は、選手発掘、啓発に効果的なのは全スポで経験済み</p>	<p>今後、パラスポーツの競技人口を増やすため、医師会と連携し、県内医療機関にパラスポーツクラブ・サークルの紹介チラシを配布するほか、パラスポーツアドバイザー（理学療法士で公認パラスポーツ指導員資格保有者）が、直接、医療機関に訪問し、障がいのある方がパラスポーツに触れるきっかけづくりを進めてまいります。</p> <p>また、特別支援学校等との連携も深め、今後、パラスポーツ競技の合同競技体験会を開催するなど、パラスポーツ競技人口の拡大に取り組んでまいります。</p>
18	<p>パラアスリートの発掘について、障がいの有無を問わずスポーツを楽しんでいると感じることが重要です。しかし、本計画における障がい者のスポーツ活動推進は、運動・スポーツ導入に関する取り組みが少なく、選手発掘や育成・強化が中心であるように感じられます。健常者と比較し、障がい者は日常的に運動・スポーツ活動がしにくいことが想定されますので、障がい者のスポーツ活動の機会創出や継続的な環境づくりも並行して取り組んでいただきたいです。そのためにも、特別支援学校や特別支援学級における体育の充実に向けた施策を盛り込むことはできないでしょうか。</p>	<p>特別支援学校や特別支援学級に通っている児童・生徒に対して、パラスポーツを体験する機会が増えるよう、出前形式のパラスポーツ体験会を開催し、学校内においてスポーツ活動の充実が図られるよう障がい者のスポーツ活動の機会創出に取り組んでまいります。</p>

基本方針2 チームふくいであスリートの頂点へ

No	意見	意見に対する考え方
19	<p>基本方針2の施策目標は、「ジュニアアスリートアカデミーからの全国大会出場」ではなく、「ジュニアアスリートアカデミーからのシニアレベルの国際大会出場」を目標とすべきです。全国大会を目指すことが若年者の早期専門化を促す可能性があるため、世界選手権やオリンピック、パラリンピックを目指した長期の育成パスウェイを考えるべきです。</p>	<p>ジュニアアスリートアカデミーは、国際大会で活躍できるアスリート育成の起点として、メンタルトレーニングやスポーツ栄養学など知識や運動能力を高めるプログラムを提供し、中高生や大学生、社会人における国スポ・オリンピックを目指す選手への中長期的な強化支援サイクルを構築しています。こうしたことから、起点となるジュニアアスリートアカデミー受講者の全国大会出場者数を施策目標として設定し進めてまいります。</p>

20	女性が安心してスポーツができるように、アスリート盗撮を犯罪行為とする条例を制定し、許可を得た報道関係者以外の立ち入りを禁止することや、望遠レンズでの盗撮を防ぐための対策、警備員や警察官による見回りを実施すべきです。	アスリートの盗撮防止については、各競技団体において、防止の措置を講じており、場合によっては警察の協力を仰ぎながら、個別に対処を行っています。競技団体から相談があった際には、適切に協力してまいります。
21	指導者からのハラスメントを受けた際の相談窓口を設置し、県民に周知すべきです。	福井県スポーツ協会内にコンプライアンス専用相談窓口を設置し、ハラスメントに関する相談を受け付けております。アスリートの皆様が安心して利用できるよう、相談窓口の周知に努めてまいります。
22	スポーツ医の活用については、女子アスリートの生理や無月経症状、貧血等の相談体制の充実させ、低用量ピルの活用を周知することを義務付けるべきです。	スポーツ医・科学サポート事業では、県スポーツ協会を窓口として、各競技団体に対し、女性アスリート・ルナコントロールプロジェクトの出前講座を行うなど、女性アスリートへの相談体制の充実を進めております。今後も周知し、積極的な活用を努めてまいります。
23	「スポーツ医・科学サポートの積極的活用」では、スポーツ医学関連のみが記載されています。より効果的なトレーニングの促進には、スポーツ科学を活用したトレーニングの推進が必要です。県内大学のスポーツ科学分野の専門家との共同研究推進など、地域資源の有効活用を踏まえた施策が必要であると考えます。	スポーツ医・科学を活用したトレーニングの推進については、各競技団体の練習時等にアスレチックトレーナーを派遣し、より効果的なトレーニングの促進を行っています。また、ふくいジュニアアスリートアカデミー内においても、上記と同様にスポーツ科学分野の専門家と協力し、受講生に対し、より効果的なトレーニングを進めてまいります。

基本方針3 スポーツでワクワクドキドキを

No	意見	意見に対する考え方
24	プロスポーツの試合を、もっと多く県内で開催してほしいです。目の前でレベルの高いプレーや技を見て感動したいです。また、SNS等で広報アピールし、若い世代を動かすことで盛り上がると思います。	プロスポーツの試合や全国規模のスポーツ大会などの県内開催が増えるよう、競技団体等と協力し、誘致を進めてまいります。また、SNSを活用した情報発信については、市町や競技団体等を対象とした研修を実施するなど、積極的に取り組んでまいります。
25	エンタメの部分に関して、福井ブローウィングズをはじめとする FUKUI RAYS の存在により、スポーツ応援の文化が着実に根付いていると実感しています。認知度向上などの取り組みを行い、より福井にスポーツの盛り上がりを波及させてほしいです。	福井ブローウィングズをはじめ、FUKUI RAYS 全チームの認知度向上やホーム戦がさらに盛り上がっていくよう、県としても引き続き応援してまいります。

26	<p>トップアスリートやトップパラアスリートのスポーツ教室開催は、選手を通して競技をより身近に感じることができ、将来性のあるよい企画です。</p>	<p>令和6年度「スポカル FUKUI」のスポーツイベントでは、オリンピックやパラリンピアンによる教室やトークショーが開催され、子どもから大人まで多くの方に参加いただきました。県民のスポーツに対する興味・関心を醸成し、県内スポーツの機運が高まるよう、今後も引き続き、トップアスリートを招いたスポーツイベントの開催を進めてまいります。</p>
----	---	--

基本方針4 スポーツの魅力をもっと身近へ

No	意見	意見に対する考え方
27	<p>組織や団体の運営を支える人材の育成には、研修会だけでなく、実際の運営を経験させる後押しや、運営者のためのイベント実施、学部設置なども検討していただけると幸いです。</p>	<p>次期計画では、スポーツを支える組織や体制の充実にも力を入れており、総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団、その他の地域スポーツクラブ、スポーツ推進委員等を対象にした人材育成の研修会などを開催し、スポーツ活動を支える人材の育成を進めてまいります。これにより、実際の運営に役立つ知識や、ノウハウを有した人材の育成を進め、地域スポーツ活動をより充実させてまいります。</p>
28	<p>スポーツというと競技スポーツのイメージがありますが、多くの子どもたちにとっては健康につながる運動が良いとされています。スポーツ環境は改善されており、幼少期の遊びなど体を動かし続けることができる環境作りもできるとよいと思います。部活動の地域移行が進み、クラブ化（強化、上を目指す）が進んでいると感じます。勝つための指導ができる指導者と、楽しい時間を過ごさせることができる指導者の両方が増えることが望ましいです。</p>	<p>次期計画の基本方針2では、現計画の「トップアスリートの養成」を継承し、競技力向上を引き続き大きな柱の一つに位置付けています。また、基本方針1では、県民の誰もが日常生活の中でスポーツが当たり前にある福井を目指しており、スポーツや運動が好きな子どもが増えることで、学校卒業後もスポーツに触れる習慣が定着することを期待しています。そのため、スポーツ指導者の育成と質の向上などの施策を通じて、多様なニーズに応えられる指導者の養成を図ってまいります。</p>
29	<p>「スポーツボランティアはしていないが興味はある」という意見が想像より多いと感じました。スポーツを支える層を取り込むために、例えばブローウィンズのファン感謝イベントなどで、「1時間ボランティアスタッフとして参加し、選手とレクリエーション体験をするイベント」があれば、楽しみながらボランティアのやりがいも体験でき、スポーツやボランティアへの興味が深まるのではないかと思います。</p>	<p>県（福井県スポーツまちづくり推進機構）では、ボランティアの登録から募集までワンストップで実施できるスポーツボランティアの仕組みを構築し、人材の確保を進めているほか、ボランティアの資質向上を図る講習会を開催するなど、スポーツをささえる人材の育成に力を入れていきます。今後も、関係団体等の意見をお聞きしながら、スポーツボランティアの活動が活性化できるよう取り組んでまいります。</p>

30	<p>スポーツの「する」「みる」「ささえる」に加えて、今回明記の少ない「しる」の機会をもっと増やすと良いと思います。例えば、ハピテラスでのイベントやメディア（SNS）等、全くスポーツに興味のない方にも新しく接する機会を増やしていくと良いと思います。福井県では、フェンシングのように魅せるスポーツの後押しが大切であり、ロケーションの提供なども、その一つになると思います。（例：お堀、一乗谷、東尋坊、恐竜博物館、永平寺などでフェンシングの大会など）</p>	<p>県（福井県スポーツまちづくり推進機構）では、スポーツ情報ポータルサイトにおいて、県内のスポーツイベント情報の発信や県内スポーツ施設の情報、FUKUIRAYSの試合結果の掲載などを行っており、引き続き、県民の皆さまに分かりやすく、使いやすいサイトになるよう、磨き上げてまいります。あわせて、SNSなども活用しながら多くの利用者に関心を持ってもらえるようさらに努めてまいります。</p>
31	<p>eスポーツにも力を入れていることを知り、驚きました。eスポーツの普及により、多くの人々がスポーツの楽しさに気づけると思うので、ぜひ挑戦していただきたいです。</p>	<p>本県では、令和4年度より、一般社団法人福井県eスポーツ連合などと連携し、商業施設や「スポカル FUKUI」などでeスポーツイベントを開催しています。次期計画では、「eスポーツの普及拡大」を掲げ、各市町においてもeスポーツの取組みが進むよう、県の取組み事例を市町にも共有して、さらに推進してまいります。</p>
32	<p>eスポーツの推進方法として、市町やスポーツ協会が定期的に教室を開催することができれば良いと思います。</p>	<p>本県では、県内のスポーツ情報をまとめたポータルサイト「F.sports!」を運用しており、ポータルサイト内で、県内各市町のスポーツ施設を掲載していますのでご活用ください。</p>
33	<p>福井は天気が悪いことが多いため、親子で利用できる屋内施設などを簡単に検索できると良いです。クラブなどに所属せず、休日に親子でバスケやバトミントンをしたいと思っても、利用できる場所が分かりません。</p>	<p>本県では、県内のスポーツ情報をまとめたポータルサイト「F.sports!」を運用しており、ポータルサイト内で、県内各市町のスポーツ施設を掲載していますのでご活用ください。</p>
34	<p>福井県スポーツ推進計画では、基本理念や基本方針がしっかり示されており、幼児から高齢者まで、障がいの有無を問わず運動やスポーツができる環境づくりをしていることがわかります。計画書は問題点を細かく分類して取り組んでおり、一つ一つ丁寧に原因、対策、支援体制等を記述しています。また、アンケート調査等の計数をグラフや表にして分かりやすくしたり、写真等を各ページに用いて楽しく読みやすくしています。 私見として、雨の時期や冬場に不足する屋内施設、屋内コートの実施の必要性を感じます。</p>	<p>天候に左右されず、年間通じて県民誰もがスポーツを楽しめる環境を確保することは、スポーツ団体の活動だけでなく、スポーツを通じた健康づくりや世代間交流の促進などにつながることから、重要であると認識しています。今後も、県民誰もがスポーツに気軽に参加できる環境整備に努めてまいります。</p>